



ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.5

発行日 ● 平成19年(2007)9月15日

もくじ

| | |
|-------------------------|---|
| ごあいさつ | 1 |
| 内容豊かな「旧制学習院歴史地理標本室移管資料」 | 1 |
| 辻邦生「スケッチブック」について | 2 |
| 「牛車」乗車体験記 | 3 |
| 『太平記』の〈乗り物〉 | 4 |
| お知らせ | 4 |

2007年度 学習院大学史料館 常設展 「ヒトと乗りもの」

会 期：2007年9月25日(火)～11月30日(金)
 開室時間：平日12:00～17:00、土曜日10:00～12:00
 ＊日曜日・祝日・10月17日(水)は閉室
 特別開室日：10月8日(月・祝) 12:00～17:00
 10月27日(土) 10:00～17:00
 会 場：学習院大学史料館展示室(北2号館1階)
 入場無料

1. ごあいさつ

現在、学習院大学史料館では、平成19年度常設展覧会「ヒトと乗りもの」を開催しております。当館の多様な収蔵史料から、創造・発明の歴史である人と乗りものとの関係を考えてみようという展覧会です。また、このテーマのもと、当館ゆかりの本学教員の史料もあわせてご紹介いたします。

本ミュージアム・レター第5号では、この常設展覧会の内容をより豊かにする関連記事を掲載いたしました。本レターを通じて、当館の展示や活動を身近に感じていただければ幸いです。
(館長 神田龍身)

2. 内容豊かな 「旧制学習院歴史地理標本室移管資料」

学習院大学史料館の収蔵史料の中でも、とりわけバラエティーに富んだ内容を有しているのが「旧制学習院歴史地理標本室移管資料」です。これは旧制学習院中・高等科の歴史地理標本室に収蔵されていた教育用の資料で、発掘調査による出土資料、アイヌや南方などの民族資料、陶磁器などの工芸資料、島津製作所の標本類などがあります。

たくさんある資料の中でもひととき美しく、私たちの目を引くのが「唐三彩馬俑」です。俑は墓に副葬する人や動物をかたどった木製・土製・金属製の人形で、唐三彩は唐代に焼かれた軟質陶器で彩色されたものです。

「唐三彩馬俑」の出土地は不明で、大正13年(1924)に75円で購入されたという記録が残るのみです。白米の小売価格が一升約44銭の当時、相当高価なこの資料を購入したのはなぜなのでしょう。入手経緯の記録がないため、もはや真実はわかりませんが、馬俑の優美な姿が、当時の学生たちの考古学への興味や雄大な大陸とそこを駆ける馬への憧れをかきたてると考えたからではないでしょうか。

長い年月を経て、「唐三彩馬俑」は今も私たちの前にたたずみ、教育への情熱と歴史の重さを伝えていきます。

(野尻泰弘)



▲唐三彩馬俑(「旧制学習院歴史地理標本室移管資料」史料番号287)